

柴崎 菜々子  
SHIBAZAKI Nanako



ヒイラギの日  
紙本着彩、岩絵具

## ヒイラギの日

私にとって作品制作は自意識を可視化する一つの手段である。

自意識とは、個人が自分自身の存在や感情、思考などを認識し理解する能力のことを指すとされる。しかし、人間は社会に関わり、他の人間と多くの交流を行うことで生活を構築し持続させている。筆者は産まれた瞬間から既に形成された社会で育ったため、自分自身の感情や思考がこうである、と結論へ導くプロセスに社会の影響を強く受けていると考えている。つまり、自意識は自分だけの独自性を持つもののように表現されているが、社会で生きていくために他者との交流を重ねることにより、規範に沿った変化をしている一面がある。

では、自意識という言葉が指す「自分」とは、すべてが外的要因によって形成されたものなのだろうか。筆者はそれも違うと考えている。私にとって自意識には三つ要素がある。そのうち二つは、心理学で用いられる、主我と客我といわれているものだ。残りの一つは、私が個人的に「軸」と捉えているものである。主我と客我のように多数分岐した自意識の側に筆者のいう「軸」はあり、それは無意識の領域に存在している。自分が認識できる自意識は大元となる「軸」がなくては生まれることも無いのではないかと考えている。例えば、自然を散策している最中などに、ふと理由もなくここだと感じることもある。これは自意識のなかの「軸」が反応したのではないかと考えている。その「軸」は、社会に影響されない自分だけの真っさらなものなのかどうかは正直わからないし、それを認識することは極めて困難であるが、こうした反応自体を否定したくない。

本作品は現在の筆者の自意識を映し出したものである。現実では起こり得ない縮尺や遠近感のある画面は、筆者のなかにある「軸」に寄り添った表現である。「軸」を気遣うようにすることで、自身の知り得ない領域にある無意識をも可視化している。